

児童相談所と市区町村で共通利用可能な子ども虐待対応のための安全確保の必要性チェックシート

識別番号		記入日時	年	月	日	:	記入者:	確認者:
種 別	身体・ネグ・性・心理	児童名			(男・女)	歳	か月	学年等:
通告元		虐待者	[主/従]		(男・女)	歳	子どもとの関係:	
		虐待者	[主/従]		(男・女)	歳	子どもとの関係:	
主 訴								

区分		疑い(調査前)	疑い(調査後)	該当	疑い(調査前): 疑いが生じている 疑い(調査後): 調査したが疑いが残る 該当: 調査により該当することが確認		「調査」とは: (ガイドブック P25 参照) 児相・市区町村や、通告元・関係機関が【直接】確認した情報を「調査」とする 通告元・関係機関が【伝聞】で得た情報は、調査に含めず「疑い(調査前)」とする	
					重篤項目: 1 つでもチェックがついた場合、重篤な虐待である可能性が極めて高く、安全確保がされるべき			
重篤項目 一時保護(通告/送致)の要否判断までに確認	1 重篤身体的虐待 ※1 不慮の事故によるもの確認がないもの	子ども			1	頭蓋内損傷・頭蓋内出血 ※1		
					2	眼底出血・網膜剥離・水晶体脱臼など ※1		
					3	内臓損傷・腫脹・出血 ※1		
					4	骨折痕・新旧の多数の創傷 ※1		
					5	火傷・火傷痕 ※1		
					6	毒物・薬物などを飲まされる、または中毒症状がある		
					7	頭部・顔面・胸部・腹部の打撲痕		
					8	帯状痕や二重条痕などの特徴的な形状の創傷		
					9	身体各部に拘束痕を疑う傷		
					10	首絞めを疑わせる絞扼痕		
					11	骨折・重度の傷あざ(殴る・叩く・蹴る・踏みつけるなどの暴力による可能性があるもの)		
					12	骨折・重度の傷あざ(道具を用いた暴力による可能性があるもの)		
					13	締め出し(子どもの安全を守れる養育者がいない状態で危険にさらされる戸外にいるなど)		
		暴力行為			14	首絞めの目撃・報告		
					15	子どもを溺れさせる(風呂などに沈める行為を含む)		
					16	子どもの鼻と口をふさぐ(乳幼児の場合は布を顔にかける行為を含む)		
					17	子どもを縛りつける・トランクや箱などに閉じ込める・布団蒸しにする		
					18	殴る・叩く・蹴る・踏みつけるなどの暴力、または道具を用いた暴力があり、子どもがけがを負う危険性がある		
					19	乳幼児を立て抱きにして前後に激しく揺さぶる・投げ飛ばす・床に落とす		
	他			20	代理によるミュンヒハウゼン症候群(MSBP)			
				21	その他重篤と評価される身体的虐待()			
	2 重篤ネグレクト	子ども			22	器質的な理由によらず、子どもの身長または体重が標準身長・標準体重の-2SDを下回っている		
					23	子どもが置き去り・放置(車内含む)されている。または、養育者不在での夜間徘徊がある		
					24	子どもが疾病などにより衰弱している状態のまま放置されている		
					25	養育者の監護なしに、子どもだけでは危険な環境に置かれている		
			養育者			26	感染症・乳幼児の下痢・脱水症状・慢性疾患・重度の外傷などがあるが病院を受診させていない	
					27	養育放棄がある、または養育者が子どもの養育(医療的対応含む)に無関心・拒否的・「世話をしたくない」などと訴える		
		他			28	異物や不適切な薬物を、子どもが勝手に飲めしまう環境がある		
					29	その他重篤と評価されるネグレクト()		

区分		疑い (調査前)	疑い (調査後)	該当	疑い(調査前): 疑いが生じている 疑い(調査後): 調査したが疑いが残る 該当: 調査により該当することが確認		「調査」とは: (ガイドブックP25 参照) 児相・市区町村や、通告元・関係機関が【直接】確認した情報を「調査」とする 通告元・関係機関が【伝聞】で得た情報は、調査に含めず「疑い(調査前)」とする	
					重篤項目: 1 つでもチェックがついた場合、重篤な虐待である可能性が極めて高く、安全確保がされるべき			
重篤項目 一時保護(通告／送致)の要否判断までに確認	3 性的虐待の疑い ※性的虐待の対応ガイドラインに基づき、疑いがあった段階で調査保護(通告/送致)を検討する	子ども			30	子どもの性器・肛門・下腹部に説明のつかない傷・異常がある。または説明のつかない性感染症がある		
					31	子どもから、「誰が何をしたか」の情報を含む詳細な性暴力被害の訴えがある		
					32	被害詳細は不明ながら、子どもから、性被害を疑わせる発言がある		
					33	子どもが、年齢不相応な性的興味・関心・知識を持っている		
					34	子どもが、被害経験の疑われるような過剰に性的な表現をする		
		加害者(きょうだい等含む)			35	性器・口腔・肛門への侵入を伴う行為がある		
					36	直接・間接を問わず、子どもの身体に触れるか、同様に自分や他人の身体を触らせる		
					37	子どもに性器や性交を見せる		
					38	子どもをポルノグラフィーの被写体にする		
					39	子どもに売春や援助交際を強要する		
					40	子どもの着替えを覗いたり、一緒に入浴することを子どもに強要するなどの行為がある		
					41	性的描写のある物品を子どもに見える状態にしている		
			42	子どもに対して卑猥な言葉を発する				
	他			43	性的虐待が懸念される環境や状況(加害者が子どもに接触できるなど)がある			
				44	その他 性的虐待()			
	4 重篤その他虐待	子ども			45	子どもが帰宅を嫌がる、または拒否する		
					46	子ども自身が保護・救済を求めている		
		養育者			47	子どもに不適切な薬物投与をしている(意図的かどうかを問わない)		
					48	子どもに心中や自殺を強要する行為・発言がある		
					49	子どもに自傷行為や自殺企図があるが、適切な支援機関に相談させていない		
					50	養育者が子どもの保護・救済を求めている、または養育上の課題に対する解決方法を求めている		
					51	養育者から、「このままでは何をするかわからない」「子どもを殺してしまそう」など、自己制御困難の訴えがある		
					52	虐待の可能性が高いと判断されるにもかかわらず、否定する		
					53	養育者の心理的な急変・自殺企図・親子心中未遂がある、または「死にたい」「子どもを殺したい」などのほのめかしがある		
		家庭			54	その日の生活に困るような生活困窮状態(ライフラインが止まる可能性があるなど)		
					55	家庭内で、首を絞めるなどの窒息につながるDV、刃物などの武器を用いたDVが生じている		
				56	その他重篤事態へとつながる可能性のあるDV(暴言含む)が生じている			
他				57	子どもまたは養育者の居所が不明			
				58	子どもや養育者が、「殺されるかもしれない」「何をするかわからない」などの別の養育者に対する確信めいた不安や恐れを訴える			
			59	子どもの安全が疑われ、かつ、きょうだいに虐待死・死因不明死・事故死情報のいずれかがある				
			60	その他重篤と評価される虐待・行為・状態・環境()				

区分		非 該 当	(調 査 後) 疑 い	該 当	非該当：調査により該当しないことが確認 疑い(調査後)：調査したが疑いが残る 該当：調査により該当することが確認	
					重篤関連項目(A項目)：「該当」または「疑い(調査後)」に1つでもチェックがついた場合、重篤な虐待との関連性が高く、安全確保が検討されるべき	
一時保護(通告／送致)の要否判断までに要調査	外傷				A1	養育者が説明を回避する、または養育者の説明内容に疑念がある
	家庭				A2	支援や介入が困難である、または支援のための資源が不足している
					A3	養育負担の偏りがある、または夜間監護がない
					A4	養育環境が不適切である
					A5	経済不安、または就労の不安定さがある
	子ども				A6	子どもに情緒的な問題、または対人距離・愛着関係の課題がある
					A7	子どもが養育者を過剰に支持する
					A8	養育者に対して挑発行動がある、または挑発行動がエスカレートしている
					A9	子どもに摂食・排泄の異常や、喘息・アレルギーがある
	養育者				A10	養育者が、暴力のほのめかしや、過剰なしつけ・体罰での暴力・正座などの強制をする
					A11	養育より自身の都合を優先している。生活が自己中心的である。態度から事態改善が見込まれない。
					A12	養育者に、育児スキルの不足や育児の不履行がある
					A13	養育者は、怒りや突発的事態への対処が困難である
					A14	養育者が子どもの育てにくさを感じている
					A15	養育者に、支援の拒絶・回避・無関心さがある。または支援者への態度に一貫性がない
					A16	養育者に、精神科の通院歴・精神的な不安定さ・判断力の減退・養育困難さがある
					A17	養育者に家庭外ストレスがある
	過去				A18	子どもに被虐待歴がある
					A19	きょうだいに、相談歴・一時保護歴・措置歴などがある
重篤準関連項目(B項目)：「該当」または「疑い(調査後)」に1つでもチェックがついた場合、重篤な虐待との関連性が高く、安全確保が検討されるべき						
援助方針会議までに要調査	外傷				B1	子どもに、打撲痕や内出血などの外傷がある
					B2	子どもに、噛み傷・わずかな傷・説明されない傷がある
	家庭				B3	家族構成や同居人に変化がある
	子ども				B4	子どもが、学業上の課題を抱えている
	養育者				B5	養育者が、通告による傷つきやプレッシャーを感じている
					B6	養育者に、虐待の黙認・擁護・認識欠如がある
					B7	養育者に、支援者への攻撃性がある
					B8	養育者に、人前での暴言・暴力がある、または子どもが泣いてもあやさない様子がある
					B9	20歳未満での予期せぬ妊娠・出産(過去の若年妊娠・出産歴がある場合も含む)
					B10	養育者間葛藤・対立や話し合いの困難さがある、または養育者間の立場が対等ではない
					B11	養育者に、物質・行為への依存がある、または発達障害の診断・可能性がある
	他				B12	(組織内で)今までに経験したことのない事例である
自由	他				C1	

意思決定と判断理由

1 記入時点の意思決定

(年 月 日 :)

児童相談所: ☐ 市区町村への逆送致 ☐ 在宅支援 ☐ 指導あり ☐ 一時保護

市区町村: ☐ 要支援 ☐ 要保護 ☐ 児相へ通告 ☐ 児相へ送致

2 緊急出動を行ったか

初回現認日時 (年 月 日 :)

☐ いいえ ☐ はい

3 一時保護(通告/送致)を行ったか

(年 月 日 :)

☐ いいえ ☐ 一時保護 ☐ 児相へ通告 ☐ 児相へ送致

4 一時保護(通告/送致)を行わなかった場合の判断理由

☐ 虐待非該当 ☐ 安全が確保 ☐ 保護(送致)調整が困難 ☐ 子どもが保護拒否 ☐ DV・面前暴力

☐ 程度が軽度 ☐ 泣き声通告 ☐ 関係機関の反対 ☐ 他機関が近日訪問予定 ☐ 特定妊婦

理由記入欄 (安全だと判断した理由・根拠を記載してください)